希望郷いわて国体サッカー競技リハーサル大会ダイジェスト

国体へ熱気上昇

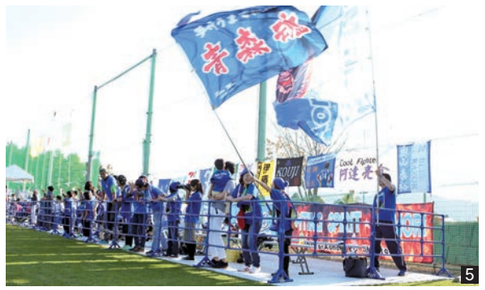
希望郷いわて国体のリハーサル大会が10月17･18の両日、本市で行われました。熱気に包まれた2日間―。選手や観客、そしてサポーターにカメラが密着しました。

希望郷いわて国体（以下、国体）まであと1年をきり、本市でもついに国体のリハーサル大会である「第51回全国社会人サッカー選手権大会」が開催されました。同大会は10月17・18の両日、遠野運動公園多目的運動広場（天然芝）、市国体記念公園市民サッカー場（人工芝）の2会場で行われ、白熱した試合が繰り広げられました。市民や各出場チームのサポーターは、選手に熱い声援を送り、選手とともに喜びや感動を分かち合いました。

同大会が成功した裏側には、大勢の市民サポーターの存在がありました。準備から本番まで、子どもから大人、市内の企業・団体など、総勢4324人が参加。市内の児童・生徒らが製作したのぼりや、花いっぱいボランティアが植栽したプランター、郷土料理「ひっつみ」のお振る舞いなど―。さまざまなおもてなしは、選手や観客の心をあたためました。中でも、エスコートキッズは本市独自の取り組み。選手とともに手をつなぎ、堂々と入場する姿に、会場からはあたたかい拍手が送られました。

リハーサル大会の熱気を国体へ―。サポーターの存在は、国体成功へと導く大きな力となります。「サッカーのまち遠野」をさらに全国に轟かせ、遠野の魅力を発信するために、市民一人一人が手を取り合って、国体をさらに盛り上げていきましょう。

1＿選手と手をつなぎ入場したエスコートキッズ。選手と笑顔で交流する姿が見られました　2＿手に汗握る熱戦が繰り広げられました　3＿優勝を目指し、心を一つにする選手たち　4＿選手はサポーターとともに勝利を喜びました　5＿声が枯れるまで、熱い声援を送るサポーター



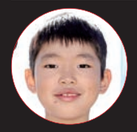
サポーターの力が国体を熱くする

6＿手作りののぼりと花のプランターが会場を彩り、国体ムードが一気に上昇　7＿遠野らしいおもてなしのひとつ「ひっつみ」のお振る舞い。選手や観客の心をあたためました　8＿国体応援グッズで選手を応援　9＿サポーターが常に試合会場周辺の環境整備を行い、きれいな会場でおもてなししました　10＿アナウンスは市内の高校生が担当　11＿ケガをした選手を担架で運ぶ競技補助員

Special Supporter

Interview

エスコートキッズ　工藤 楓万（ふうま）くん　＝上郷小3＝

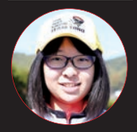


初めての経験で緊張しましたが、選手と一緒に入場できたことは、一生の思い出です。来年のいわて国体でも、選手の皆さんを全力で応援していきたいです。

競技サポート　菊池 莉空（りく）さん　＝遠野高サッカー部＝

選手の皆さんに気持ちよくプレーしていただくために、会場整備などに携わりました。選手たちの試合展開を目に焼き付け、自分たちのプレーにも生かしていきたいです。

案内スタッフ　白岩 蘭（らん）さん　＝遠野高1年＝

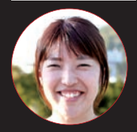


良い経験になると思い、サポーターに応募。サポーターを機に、さまざまな人と交流することができています。国体に向け、自分ができるサポートをしていきます。

グラウンドキーパー　佐々木 章人（あきと）さん　＝遠野施設管理サービス＝

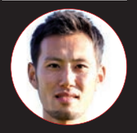
選手が最高のプレーをするためには、芝の管理は重要な要素。ミリ単位の調整がプレーに大きく影響します。国体本番でも完璧なピッチに仕上げます。

応援サポーター　神山 未来（みき）さん　＝松崎町出身、盛岡市在住＝



国体サッカーのリハーサル大会が遠野市で行われると聞き、応援しに駆け付けました。こんな間近で白熱した試合を見ることができて、とても感動しました。

東北地域代表　伊藤 拓真（たくま）選手　＝ラインメール青森キャプテン＝



人工芝、天然芝どちらのグラウンドも感触がよく、気持ちよくプレーができました。サポート体制も行き届き好感が持てました。市民の皆さんに感謝しています。

Special Interview

岡田 武史（たけし）さん
＝FC今治（愛媛県）オーナー、元日本代表監督＝

市民総出のおもてなしに驚きました。国体でトップレベルの選手のプレーを生で観戦し、国体を契機に、サッカーのまち遠野からJリーグや世界に通じる選手が生まれることを期待しています。